

一人ひとりに適した勉強方法を提示するため、常に高いアンテナで新しい情報を収集し続ける。

「英語を使って自分の人生、そして将来の道を切り拓いていける生徒を育てたい」。その思いを具現化すべく、真摯に教科指導に取り組む鈴木崇元先生。進路指導においても積極的に個別面談を行い、愛情を持って生徒指導に努めている。

イケてる
センセー!!
vol.21



群馬・県立渋川高校
教諭 たかゆき
鈴木崇元先生

profile

1978年群馬県生まれ。中学で教わった英語の先生の影響を受けて教職を志す。群馬県立桐生高校、群馬大学教育学部英語専攻を経て、群馬大学大学院教育学研究科修士課程修了。2004年4月から群馬・桐生市立商業高校を4年間経験し、2008年、渋川高校へ。赴任当初より進路指導部に在籍。担当教科は英語。手にしているのは生徒向けに自作した英語の問題集。気分転換は読書。社会学者や経済学者の本を読むのが好きなのだそう。

生徒の特性に合わせて英語の勉強法を伝授

新年度の冒頭で、鈴木先生は「全員、自分の意見を100ワードで書けるレベルに到達させる」といった具合に1年後の目標を具体的に掲げ、年間の授業計画を立て、そこから1時間ごとの授業の中身を細かく組み立てるといふ。

「そうしておく、ある文法項目で理解できていない生徒が多いと感じた時、そこを集中的に繰り返すなど対策を講じやすいんです」

英語は「どう役立つのか」と必然性を感じると伸びる生徒が多い。そのため、いかに興味をもってもらえるかが大事だが、そこは教師の力量次第だといふ。

「生徒たちは先輩の話に反応するので、卒業生たちはどうやって英語の成績を伸ばしたか、英語力を生かして今、どんな職業に就いているのかななどを意識して多く話すようにしています」

授業には、アクティブラーニングも導入し、活発な意見交換による学習効果もねらう。とはいえ、すべての生徒にこの

やり方が合うとは限らない。授業中、まったく発言せず終わってしまう生徒も出てくる。「その場合、違ったやり方で伸びてくれたらと思い、授業を補足する問題集を作ってプリント配布することも。新しいもの好きな生徒にはネットで英語のプレゼンテーション動画を見ることや良質なネットラジオの視聴を勧めます。一方、ノートをきっちり取る実直タイプには長文の構造を文法できっちりつかんでいく勉強方法を伝えるなど、授業中の態度などから個性を探り、一人ひとりに合った勉強の方法を処方します。どんな勉強方法であれ、とにかく英語力が身につけばいいと考えています」

面談という形式の中で生徒の本音を探り続ける

渋川高校に着任以降、進路指導部に所属しながら、クラス担任も務めてきた鈴木先生。「自分の意見を発信し、多様な意見を受け入れられる人になってほしい」と願い、ここでも一人ひとりの状況や個性に合わせた指導を実践。そ

こで重視しているのは個別面談だ。

「生徒の本音に触れ、こちらの思いを届けるには1対1で話した方が効果的。話し合いが必要な生徒には、何度も個別面談を行います」

廊下などでひと声をかけただけで生徒をやる気にさせるのが得意な教師もいる。だが、自身はどちらかといえば、何度も話し合いを繰り返し、じわじわと思いを浸透させるタイプだといふ。「生徒とは日誌の交換をしていますが、こちらの話していることがちゃんと伝わっていない、受け止めていないと感じる生徒には何度も同じコメントを書きます。もちろん「くどい」「しつこい」と言われますが、それはしかたないですよ（笑）」

生徒と面談するたびに、その時のやりとりや気になったことは必ずノートにメモする。そこから生徒の微妙な心の変化が浮かび上がってくるからだ。

「その場の雰囲気や思いつきで指導するのではなく、変遷を踏まえて指導したいですね。今なぜこういう言動になっているのかもノートを振り返るとつかめ、次の指導のヒントが見えてきます」



面談ごとに気になることをメモしているノート。毎年1冊、一人1ページずつ書くようにしている。渋川高校へ着任して以降、ずっと続けている習慣だ。

fan message



私は2014年度まで渋川高校に在籍していました。鈴木先生は進路に迷う生徒に対して1年中、面談を続け、丁寧に根気よく進路指導をされていました。また、研修会にも積極的に参加して情報収集するなど、常に教科指導力向上の努力を惜しみません。その姿勢は生徒や保護者にも伝わり絶大なる信頼を得ています。もし、自分の子どもが高校生なら鈴木先生に担任と英語の指導をお願いしたいと思うほどです。（群馬・県立高崎工業高校定時制教頭 高橋康先生）